

令和4年度第1回市原歴史博物館協議会議事録

1 日 時 令和4年3月9日（木）午後2時00分～午後3時30分

2 会 場 市原歴史博物館多目的室

3 出席者

【委員】

立野委員 [会長]、石黒委員 [副会長]、土岐委員、石井委員、高木委員、井上委員、露崎委員

注) 山田委員、工藤委員、湯浅委員は都合により欠席

【事務局】

教育振興部 鈴木部長、黒須次長

教育振興部文化財課 佐久間課長、忍澤主幹、渡辺課長補佐

教育振興部文化財課歴史博物館 鷹野館長、鶴岡主査、芝崎副主査、田村副主査、西学芸員

【傍聴人】 なし

4 議題と概要

(1) 会長・副会長の選出

委員委嘱されて初めての協議会開催となるため、会長と副会長の選出を行った。立野委員を会長に、石黒委員を副会長に選出した。

(2) 令和4年度博物館事業について（令和5年2月末日現在）

博物館事業活動の構成についての考え方と、事業実績について、令和5年2月末日時点での報告を事務局から行い、質疑応答を行った。

(3) 令和5年度事業計画について

令和5年度事業の基本的考え方と、事業計画（案）について、事務局から説明を行い、質疑応答を行った。

(4) その他

博物館法の改正による市原歴史博物館設置管理条例の引用条文の改正、次回の協議会の予定内容、登録博物館の手続きについての事務連絡。

5 会議経過

別紙のとおり

別紙 会議経過

発言者	会議の経過
鷹野館長	<p>1 開会</p> <p>※会議進行は、議題(2)(3)(4)を除き、鷹野館長が務めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会時、委員 10 名中 7 名の出席。市原歴史博物館の設置及び管理に関する条例施行規則第 13 条第 2 項の規定により市原歴史博物館協議会の会議が成立していることを報告。 ・傍聴人はいないことを報告。 ・配布資料 委員名簿に基づき、委員を紹介。 ・配布資料 事務局等により、職員紹介に替える。
鷹野館長	<p>2 議題(1)「会長及び副会長の選出」</p> <p>市原歴史博物館の設置及び管理に関する条例施行規則 第 12 条第 2 項の規定により、会長及び副会長は、委員の互選により定められている。会長・副会長の選出について、意見を願います。</p>
井上委員	<p>立野委員に会長を、石黒委員に副会長を務めていただくのが良いのではないかと。お 2 人はいちほら歴史のミュージアム整備事業の基本計画策定懇話会のメンバーだったと聞いており、博物館整備の経過や趣旨も深く理解されているので、適任ではないかと思う。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
鷹野館長	<p>異議なしということなので、立野委員に会長を、石黒委員に副会長をお願いしたい。</p>
立野会長・石黒副会長	<p>承諾する。</p>
鷹野館長	<p>これよりの議事進行は立野会長に願います。</p>
立野会長	<ul style="list-style-type: none"> ・立野会長・石黒副会長は会長席・副会長席に移動し、挨拶。 <p>本日の会議の終了時間は 15 時 30 分を目途に進める。本日の議事録署名人として、土岐委員を指名する。</p>
土岐委員	<p>承知した。</p>

立野会長	<p>2 議題(2) 令和4年度博物館事業について（令和5年2月末日現在） 事務局、説明をお願いします。</p>
西学芸員	<p>配布資料 議題(2) 資料1を見ていただきたい。令和4年度博物館事業について、令和5年2月末日時点での報告をする。</p> <p>令和4年度の博物事業活動の構成の考え方として、①平成29年度に策定したいちはら歴史のミュージアム事業基本計画（以下「基本計画」という。）を基に、市原歴史博物館は「歴史をつなぐ、人をつなぐ」ことを基本理念として活動する、②事業活動は、基本計画及び市原歴史博物館管理運営方針（以下「管理運営方針」という。）、市原歴史博物館の使命（案）（以下「博物館の使命」という。）に基づき、8つの柱で構成する。8つの柱とは、①歴史をつなぐ（収集保存事業、調査研究事業）、②人をつなぐ（協働調査研究事業、地域連携事業、ボランティア育成事業）③歴史を活かす（展示事業、教育普及事業、フィールドミュージアム事業）、④魅力の発信（情報発信・プロモーション事業、発行事業）、⑤次世代につなぐ（体験学習事業、博学連携事業等）、⑥市民の参画と協働を可能にする運営体制（ボランティア活動事業）、⑦安定的かつ持続的な管理運営（施設・設備管理事業）、⑧自己評価及び外部評価の運営への反映（博物館協議会）。8つの柱に紐づく個々の事業は、相互に連携させ、好循環させることで「歴史をつなぐ、人をつなぐ」ネットワークを構築する。</p> <p>ここから各事業について説明するが、主要なもののみを取り上げて説明する。展示事業は、11月20日の開館を迎え、まずは常設展示をメインとしている。2月末時点で、12,689人の来館者があった。中には、小学校の校外学習で博物館を訪れ、その後に保護者ととも週末に再び来館したという例もある。</p> <p>教育普及事業では、開館前に歴史博物館を会場にした開館イベントとして、伝統技術ワークショップ（3日）とものづくり体験講座（3日）を開催した。鴨川市で行う予定で中止された縄文の貝アクセサリーづくり体験講座を除いて、延べ219人（+保護者）の参加があった。博物館の普及事業や博物館そのものに対する期待感を醸成する機会となった。そして迎えた開館日は、計894人が来館し、本市の歴史にちなんだステージイベントや、特別ワークショップ、先着100名への開館記念グッズ（エコバッグ）の配布を行った。開館後は、土日祝日に歴史体験館にて様々な体験プログラムを実施している。2月末までに延べ1,136人が参加している。</p> <p>ボランティア育成事業・ボランティア活動事業は、市の生涯学習センターの主催事業である市民大学専門講座歴史文化リエゾンコースの卒業生を中</p>

	<p>心としてアイミュージアムサポーター（以下「サポーター」という。）の養成及び活動を行っている。養成講座にも活動にも多くの人が参加し、2月末時点で延べ550人が活動に参加している。</p> <p>博学連携事業等は、市内小中学校との教育活動の連携とその他多様な連携事業とに大きく分けられる。特に小中学校との連携については、市内の小中学生による校外学習支援としての博物館見学・体験学習に力を入れて取り組んでいる。その結果、市内40の小中学校のうち82%にあたる33校の来館があった。また、教育活動に博物館の利用を促すため、学校の教職員への研修にも取り組んでいる。千葉大学大学院工学研究院融合理工学府デザインコースデザイン文化計画研究室との連携や、姉崎高校との連携、ふるさと市原をつなぐ連絡会との連携は以前から継続して行っている。新たに千葉市立加曽利貝塚博物館とは事業の連携を行うために、連携協定を結んだところである。</p> <p>フィールドミュージアム事業は、今年度予定していた4地区分の整備を、開館準備業務が想定以上だったために、翌年度に見送った。</p> <p>情報発信・プロモーション事業については、開館を周知するために出張イベントやプレスリリース、開館セレモニー、各種取材対応を行った。博物館専用ウェブサイト・SNSは今年度4月に開設し、継続的に情報発信を行っている。</p> <p>資料収集保存事業・調査研究事業については、常設展示資料となるものや市民からの連絡を受けたものを中心に、所在・内容の確認調査をしたり、市の歴史・民俗に関する資料の寄贈を受けたりしたものもある。</p> <p>博物館協議会は、まさにこの場であり、ここでもらう意見は博物館運営に反映していきたい。</p> <p>事業報告の最後に、受付業務委託業者からの情報提供により把握できた、来館者の声を紹介している。展示解説をやってほしいこと、講座・講演会をやってほしい等、来館者のニーズについてはこの後述べる来年度の事業計画に一部取り入れ、来館者のニーズへの対応を図っていきたい。</p> <p>以上で、今年度の2月末時点での事業報告としたい。</p>
立野会長	<p>ただいま、令和4年度博物館事業についての途中経過報告があったが、委員から質問があれば願います。</p>
土岐委員	<p>博学連携事業等の中で、中学校と小学校を積極的に受け入れているとのことだが、この短時間の中で、小学校33校という相当数の学校が博物館に来ている。混み具合等を含め、申し込んだら博物館に来れるという状況にな</p>

	っているのか。
鷹野館長	今年度は、博物館から小中学校を招待するという形で、民間バスや市バスを博物館で手配し、積極的に勧誘した結果である。1、2月に集中して受け入れた。来年度は、今年度を上回る数の学校が、来館するという予定がある。日程調整と、交通手段の手配などで困難もあり、必ずしも学校の希望通りにならないこともあるが、時期・日にちを変えることで対応している。日程調整と市バスの確保が課題である。
土岐委員	交通手段がネックになることがある。そして市バスの申込みしづらい状況であり、そのあたりの課題があるのかなと思う。
立野会長	博物館来館の交通手段の問題は、博物館単独ではなく、関係部署を含めて調整が必要と思う。ぜひ問題を共有してもらいたい。
石井委員	子どもたちが予想外に、資料を乱暴に扱うことやトラブル等はあるか。
鷹野館長	大きな問題はなかった。子どもたちが触ってみたいという気持ちは当たり前だと思うので、最低限の決まりだけ守ってもらえればと思う。
露崎委員	1校あたり平均するとどのぐらいの時間、見学をしていたか。
鷹野館長	午前午後と分かれていて、2時間から3時間ぐらいの滞在となっている。
高木委員	市P連（市原市PTA連絡協議会）の会議で、博物館協議会の委員になったことの報告と、博物館の宣伝をしてきた。博学連携事業等の説明に、学校の職員研修のことがあるが、今後の教職員研修の予定はあるか。
鷹野館長	教職員研修は、各学校単位で行ったものと、市全体の社会科主任研修等で行ったものがある。社会科主任研修等は、来年度も実施する予定がある。まず先生方に博物館を知ってもらい、博物館を利用しようという考えを持ってもらいたい。新任の先生方の研修もやらせていただきたいと検討している。
高木委員	ぜひとも学校の教職員への研修を続けてもらいたい。また学校の先生方にもそれぞれ家庭があるので、できれば家族でもお出かけいただいて、子ど

	もたちの反応の良さを先生方から学校に広めていってほしいと思う。
立野会長	教職員研修についても、今後もよろしくお願いたします。
石黒副会長	受付業務委託業者からの情報提供という形で来館者からの声載っているが、来館した方々の生の声は聴いているか。
鷹野館長	来年度からアンケートを正式に行う。現在は受付業務委託業者を通してもらった意見となっている。
土岐委員	常設展示の解説として、土曜日の10時と14時に館長によるガイドツアーを行っていて、苦勞されていると感じた。やはり解説を聞くと見方が全く変わるので、良いものだと思うが、いろんな業務の中で非常に大変なのではと思う。ガイドする人数を増やすことや、イヤホンによる音声ガイドは検討しているか。
立野会長	今の意見に付け加えて、博物館全体で非常に多岐にわたる業務を行っているのが目につく。業務のうち、外部講師を頼むことや、博物館をサポートするような人が行うことは検討しているか。
鷹野館長	常設展示のガイドツアーについては大変だったが、だんだん大変でなくなり、お客様の感想を聞くのが楽しみになった。展示解説については、学校の見学の際に、サポーターの力を借り、民俗展示室の解説を担ってもらった。常設展示室についても研修を行うことで、展示解説を行ってもらいたいと考えている。
佐久間課長	現在、博物館の職員は館長含め6名で、これだけの事業をやっている。会計年度任用職員は6名だが、来年度は10名に増やす予定となっている。会計年度任用職員の増員と、サポーターの養成により、乗り越えていきたいと考えている。
井上委員	教職員だけでなく、市役所の方々にも研修を行い、博物館の理解者を増やしてほしい。また教職員は、新任や10年目研修など積極的に行っていき、博物館を知ってもらい、博物館の良さに気づくきっかけを増やしてほしい。
佐久間課長	市役所の新規採用職員にも博物館見学を行うようにしたい。また、臨海部

	<p>企業では、全国から来る新入社員の研修の一環として、博物館を見学させたいと伺っている。</p>
立野会長	<p>質問が3つ程ある。①取材がかなりたくさんあったと思うので、その経緯や状況を教えてほしい。②千葉市立加曽利貝塚博物館との連携の経緯を教えてほしい。③市内外から電話やメール、来館者のレファレンス対応も含めて問合せ等も増えていると思うが、内訳等について集計を取っているか。</p>
鷹野館長	<p>取材対応については、資料にもあるが、開館前にメディア向けの内覧会を行い、各社がのせてくれた。共同通信でも紹介され、全国的に紹介された。個別にも、取材拒否はしないので、全て受けており、地域のミニコミ誌や新聞社の取材もあった。ラジオでは地域のいちラジ（市内のコミュニティ FM 局）で発信、開館前にはケーブルテレビの番組で有名人を呼んで PR した。フジテレビでも時間は短かったが、取材を受け、放映してもらった。</p>
鶴岡主査	<p>広報プロモーション業務については、博物館職員のみでは手に負えないものがあるので、広報プロモーション業務と特別企画展の設計制作を一括で業者委託している。市内からの取材は博物館で直接対応しているが、全国ネットのプレスリリース等については、委託している専門業者が窓口となって行き、相当数のメディアに取り上げてもらった。広告額に換算するとかなりの露出があった。</p>
忍澤主幹	<p>加曽利博物館との連携については、昨年度の博物館準備室段階の時に、考古学と人類学をミックスしたような貝塚に関するシンポジウムを行った。その後、これに関連する特別展を、加曽利貝塚博物館を会場に借りて行き、また市原市の職員が千葉市に赴いて講座を行ったことなどを機に、連携協定を結んだ。他にも大きな貝塚のある市川市や袖ヶ浦市にも声をかけたが、まずは足がかりとして、千葉市と市原市で情報の共有や人材の交流を手始めに連携を強めたいと考えている。</p>
西学芸員	<p>問合わせについては、市内の歴史に関する問い合わせや、資料個々の問合せ等、開館後相当数の問合せがある。問合せ傾向の多いもの等については、ある程度まとめて館の運営に活かしていきたいが、現在のところはまとめきれていない。</p>
立野会長	<p>問合わせの対応も、館の実績になるので負担のないような形でまとめてい</p>

	<p>けたらいいと思う。他市町村との連携については、一つの館独自では行えないこともあると思うので、例えば君津郡市と共通する部分（文化・地理）など、連携して行うことも検討してほしい。</p> <p>他に質問がないようであれば、議題（３）「令和５年度事業計画について」に移る。事務局、説明をお願いします。</p>
<p>芝崎副主査</p>	<p>２ 議題（３）「令和５年度事業計画について」</p> <p>令和５年度の事業の基本的な考え方を４つ挙げている。</p> <p>①特別展示に関すること</p> <p>概要は、いちはらの薬師様－流行り病と民衆の祈り（仮題）として、平安から室町までの薬師仏を取り上げ、流行病に民衆がどう対応してきたかについて取り上げて展示する。常設展示室を全面展開し、市制施行 60 周年記念事業を兼ねて行う。期間は 10 月から 12 月までを予定する。</p> <p>②フィールドミュージアム整備について</p> <p>今年度実施できなかった 4 地区（能満・郡本、市西、戸田、里見・月崎）のフィールドサイン設置とフィールドマップの制作を行う。</p> <p>③博学連携等のさらなる推進</p> <p>市原の子どもたちが、博物館を見学していちはらの魅力に直接触れる機会をもたせるよう、小中学校との連携をさらに推進するため、博学連携検討会は引き続き実施する。つい先日の検討会でも、来年度に向けてどのように小中学校に博物館を利用してもらおうとよいか話し合った。中学校の博物館見学数が少ないことから、授業で活用できるような、例えば動画のようなコンテンツを通した博物館利用の方策についても議論があった。8 月の市内教職員向けの研修を行ったり、校外学習で博物館を訪れてもらったりする等、さらなる連携を推進する。また、他の博物館やふるさと市原をつなぐ連絡会との連携も引き続き行っていく。</p> <p>④来館者ニーズへの対応</p> <p>要望のあった講座や講演会を実施する。以前行っていた「いちはら郷土学習講座」（前身は「いちはら埋文講座」）を予定する。</p> <p>また、来館者から、展示解説や平日の体験講座の実施についての要望が寄せられている。現状の正規職員の業務量では対応が難しいため、サポーター養成事業において、展示解説ボランティア研修や体験講座ガイド役研修を実施していく。</p> <p>さらに、現状では、展示事業や教育普及事業の土台となる資料整理や調査研究に、学芸員が時間を割くことができないため、会計年度任用職員（6 人から 10 人に増員予定）やミュージアムサポーターによる対応可能な事業については、研修を実施して運営体制を整え、資料整理・調査研究の時間の確</p>

	<p>保を図っていく。</p> <p>来館者ニーズをさらに把握するために、広報・プロモーション事業の中で、来館者アンケートを4月以降実施する予定がある。また、『広報いちはら』での「I Museum 通信」、今年度から開設している博物館専用ウェブサイトやSNSの発信に加えて、博物館内の展示を観て謎解きを行うミッションラリーの実施を、広報プロモーション業務の委託業者とともに考えている。</p>
立野会長	<p>ただいま、「令和5年度事業計画について」の説明があったが、委員から意見等があればうかがいたい。</p>
土岐委員	<p>職員数が限られている中で、業務量が多く、大変だなあというのが率直の感想である。来館者から要望のある講座・講演会は、これまでやってきたということもあって、できるかもしれない。ただ、業務がタイトになればなるほど、職員の余裕がなくなってしまう。果たしてそれが運営にとって良いのかどうか疑問である。取捨選択してやるというのはできないのか。</p>
佐久間課長	<p>事業の進捗管理も行う。博物館職員だけでなく、文化財課としても取り組んでいきたいと思う。事業と事業が重なっていたり、似ている部分がある場合は、一本化していくなど、PDCAサイクルを継承しながらやっていきたいと思う。</p>
立野会長	<p>今の点に関連すると思うが、外部講師に講座等の講師をお願いすることは、来年度もないのか。</p>
鷹野館長	<p>特別展に関連した講演は、外部講師の方を招く予定である。いちはら郷土学習講座等の通常行っていくものは、外部講師を招かない予定である。</p>
立野会長	<p>外部講師を招いたからといって負担の軽減につながるかは微妙なところではあるが、それも含めて、外部講師をお願いする部分と職員が行う部分をうまく組み合わせたい。</p>
露崎委員	<p>ミッションラリーは、有料で行うか。</p>
鶴岡主査	<p>300円から500円で考えている。中にクイズの紙と参加賞のイラストが入っている。広報プロモーション業務の委託業者から、なぞ解きがとても人</p>

	<p>気があるということで提案を受けた。また、なぞ解きをすることで、展示物をよりよく観察していく仕組み・モチベーションにもつながるということで、採用した。</p>
石黒副会長	<p>先ほど、博物館のみならず文化財課全体で対応することも想定すると話があったが、市原市は市域が広く、南北で文化もちがう。博物館ができ、問合せも増えてきている中で、特別展等に伴う調査や研究の時間を、本当に取れるのかと危惧している。ぜひとも配慮してほしい。</p>
佐久間課長	<p>マンパワーに制限があるので、一時的に博物館の業務が増えているときには、課内の他係が流動的に応援に行くなど、臨機応変に対応していく。</p>
高木委員	<p>広報プロモーション業務の委託業者の契約方法はどのようなものか。</p>
鶴岡主査	<p>プロポーザル方式の企画提案による業者選定により契約をしている。</p>
高木委員	<p>旅行者へのアプローチ・プロモーション等、PRを広げることも業者に委託できるのか</p>
渡辺課長補佐	<p>広報プロモーション業務については、特別企画展示及びプロモーションを一体で、丹青社という展示会社に委託しており、同社との協議の中で、1年目はまず市内へのプロモーションを強化し2年目からは市外へのプロモーションにも力をいれていこうという計画となっている。その一環として旅行代理店へのアプローチという提案もあった。しかし一方で、市のDMO（観光協会）からも、市外から市原市への誘客を進めている一環として、本博物館を旅行代理店に売り込んでいきたいとのお声掛けをいただき、現在はそちらでアプローチを進めている。</p>
井上委員	<p>歴史体験館の客層はどうか。</p>
芝崎副主査	<p>土日の利用者層は、親子連れが多く、また祖父母と孫が来ることもある。大人だけでも体験をできる内容となっており、来館者の年齢層は幅広い。体験講座の想定対象者として小学生以上を推奨しているが、実際には幼児も来て、保護者と一緒に体験している。</p>
井上委員	<p>中学校高校は世界的にも博物館に足を運ばない世代である。塾や部活等</p>

<p>土岐委員</p> <p>立野会長</p>	<p>があり忙しいが、キャリア形成の大事な時期でもあるので、中高生にこそ博物館に来てもらいたいと思う。一つのアイデアとしては、公民館や図書館等と連携したイベントで、博物館のブースを設けてワークショップ等を行い、博物館が面白いというきっかけづくりをしてほしい。博物館に来ない人にこそアピールをやってもらいたい。中学校の文化祭とタイアップするなどもおもしろい。将来的に、そのような形で中高生を博物館に呼び込んでもらいたい。</p> <p>今の点と関連して、小学校の場合は社会科見学等もあり、校外に出やすい。中学校では校外には出られない。方策の一つとして話のあった授業で活用できる動画等を用意するのも良いと思う。</p> <p>館長の専門だと思うが、博物館に来館するだけでなく、様々な形で博物館を利用する方法があると思うので、様々な方法を検討してほしい。</p> <p>他に質問がないようであれば、議題(4)「その他」に移る。事務局から説明をお願いする。</p>
<p>西学芸員</p> <p>鷹野館長</p>	<p>2 議題(4) その他</p> <p>報告事項が2つある。</p> <p>①現在、この博物館協議会は、博物館法第20条と、市原歴史博物館設置管理条例12条に基づき、設置している。このたびの博物館法改正により、博物館法の23条に博物館協議会のことが定められることになった。従って、現在の市原歴史博物館設置管理条例12条の引用条文が、博物館法20条から23条に変わるため、条例の改正手続きを進めている。現在開催中の市議会で議決を得る見込みなので、令和5年4月1日付で施行する予定となる。</p> <p>②次回の博物館協議会は、令和5年度の前半に開催する。年度前半の協議会では、前年度の事業報告をした後、通常では事業についての評価をしていただくが、次回については、評価のための令和4年度の事業目標が設定していない状態である。次回の協議会での評価の仕方は別に検討することにし、次回、令和5年度の博物館事業の事業目標を提示するので、それを協議・承認後、再来年度前半の協議会で前年度の事業報告の際に事業目標を基に評価していただく流れとしたい。</p> <p>なお、次回の協議会日程については、年度明けてから日程調整をさせていただくので、ご協力の程、お願いしたい。</p> <p>加えて、現行博物館法の下での市原歴史博物館の登録手続きを行っていることを報告する。</p>

立野会長	ただいまの報告事項に対して、質問はあるか。ないようであれば、進行を事務局に返す。
鷹野館長	以上で、令和4年度第1回市原歴史博物館協議会を終了する。

(問合せ先) 所管課等：市原市教育委員会教育振興部文化財課歴史博物館
電 話：0436-41-9344